

過程	学習内容・学習活動	指導の留意点と評価
導入	1 前時の内容を確認する。 ・アルテミアとミドリムシの光走性の実験の復習をする。	・アルテミアとミドリムシの光走性について確認させる。
展開	2 本時の内容を確認する。 <学習課題> どんな色の光でもミドリムシは同様な反応をするのか。 ・どの色の光に集まりやすいのか各自予想する。またその理由も考え、ワークシートへ記入する。 ・グループで意見をまとめて発表し、全体で意見を共有する。 3 実験を行う。 ①赤色、青色、緑色の光をミドリムシが入ったシャーレにそれぞれ当てて、ミドリムシがどの色の光に特に集まるか観察する。 ②光を当てる時間を20分とする。 ③光を当てている間は余計な光が入らないように箱で覆う。 ④20分後、箱を取ってミドリムシの集まり方を観察し、ワークシートに記入する。 ⑤3色の光について実験を終えたら、グループで予想が正しかったかを確認する。また、実験中に気が付いた点を記入する。 4 グループごとに発表して、全体で共有する。 <まとめ> ミドリムシが多く集まる光の色とそうでない色がある。	・ミドリムシの構造を紹介し、葉緑体を持っていることを確認させる。光合成における光の色との関係についても触れる。 ・グループ内で自分の意見を出し合って意見をまとめよう機間指導する。 ・他の光がシャーレに入り込まないように注意させる。 ・ミドリムシがどの程度集まってくるのか注意して観察するように指導する。 <評価>ミドリムシと光の色との関係について、関心を持って実験に取り組んでいる。【行動観察、関心・意欲・態度】
まとめ	5 次時の学習の内容（ヒトの眼の構造）を確認する。	○次時の学習内容を伝える。 ・器具や試料の片付け方について指導する。